

「平和・環境・多文化共生・異文化理解・人権尊重等の実践と積極的な発信」

学校名 更別村立更別小学校

校長 栗原賢次

担当者 宗形真恵

1. 活動の趣旨

本校のE S Dの活動目的は、地域に根ざした教育である。その中で、主体的に参加しようとする態度、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度を育てることを主なねらいとして取り組んでいる。

2. 活動全体計画

学校教育目標

○考えて努力する子 ○仲よく助けあう子 ○進んではたらく子 ○明るく元気な子

E S Dで育みたい力

○批判的に考える力 ○未来像を予測して計画を立てる力 ○他者と協力する力
○コミュニケーションを行う力 ○多面的、総合的に考える力 ○進んで参加する力
○つながりを尊重する力

本校のE S Dに関わる2つの柱と校内研修テーマ

柱1 地域の自然や産業に学び、人々とのふれ合いや体験活動などを通して、ふるさと更別を愛し、ふるさとに誇りを持つ子どもを育てる。

柱2 本校における教科や総合的な学習の時間など様々な活動（人権・平和・環境・福祉・産業・伝統・情報・文化・地域貢献）の継続と充実を通して「持続可能な社会」「郷土の未来」を担う子どもを育てていく。

研修テーマ「自ら学びに向かう子どもの育成」…国語科を中心に全教育活動で

○生活・総合的な学習の時間とE S D

農園活動

人と関わる活動

環境・福祉等の活動



各教科横断的な捉え

3. 活動事例

(1) 地域の自然や産業に学び、人々とのふれ合いや体験活動などを通して、ふるさと更別を愛し、ふるさとに誇りをもつ子どもを育てる活動

①農園活動

農業に従事するP T Aの協力をいただき、校舎南側の畑で、地域の主産業である農作物の栽培を行う。児童が育てた野菜はコロナ過のため家庭に持ち帰らせた。

②JA 更別青年部との交流

JA 更別青年部の協力をいただき、5年生がかぼちやの栽培に取り組んだ。5月に苗植えを行い、10月に収穫、12月に調理・試食を行った。



③幼・保・小・中・高の連携

年3回、村内の幼稚園・保育園児と1年生の交流を行った。5月には更別農業高校生と2年生児童が花壇作業を通じた交流を行った。

④本の読み聞かせ

地域の読み聞かせボランティアグループ「おはなしを楽しむ会おひさま」の皆さんが、月に1回プレイタイム（中休み）に来校し、児童に絵本の読み聞かせをしてくださっている。

(2) 本校における各教科や総合的な学習の時間など様々な活動（人権・平和・環境・福祉・産業・伝統・情報・文化・地域貢献）の継続と充実を通して「持続可能な社会」「郷土の未来」を担う子ども達を育む活動

①ふるさと学習

今年度は、帯広百年記念館での見学学習やアイヌ民族学習を行い、アイヌの方々の歴史や文化について学んだ。学習内容を新聞などにまとめるため、新聞教育研究会OBによる新聞づくり講習会を実施した。学んだことをかべ新聞にまとめ、掲示した。

②福祉の学習

コロナ過ではあったが、村内の関係機関と連携した福祉の学習を行った。今年度は、社会福祉協議会と連携し「車いす」に関する学習や「ボッチャ」体験を行った。授業を受けた本校4年生児童は、東京2020オリパラの学習とも関連させ、理解を深めることができた。

③いじめをなくそう宣言

本校では児童会が中心となり、平成19年に「いじめをなくそう宣言」を制定している。2学期はじめの集会において全児童が朗読している。



④緑の募金・赤い羽根募金・ユニセフ募金リサイクル活動

児童会代表委員会が中心となって、「緑の募金」「赤い羽根募金」「ユニセフ募金」に取り組んだ。集まった募金は村内の関係機関に寄贈した。また、全校の取組みとして、牛乳パックのリサイクルやゴミの分別に積極的に取り組んでいる。

4. 成果と課題

成果 ○地域との交流が深まり、ふるさと更別が好きだと感じる児童が増えた。

○地域（社会）の一員として活動する意識が高まった。

課題 ○今後SDGsの取組を計画的に実施し、ESDの視点をいかした教育課程の編成を目指す。